〈幼児教育〉

互いのよさを認め居心地のよい学級づくりのための援助の在り方

― 仲間意識が育つ環境の工夫を通して ―

宜野湾市立大山幼稚園教諭　大　広　貴　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼稚園教育要領 第１章 総則 第一幼稚園教育の基本において「幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり・・」と明示されている。また「人間関係」の領域では，幼児を取り巻く家庭や地域社会の変化を背景に，コミュニケーション能力の高まりや協同する経験，幼児が自信をもって行動すること，自制心や規範意識の芽生えが提示されている。幼稚園生活において，幼児が身近な教師や友達とかかわり合う中で，信頼感を抱き，自己を発揮し，他者を意識して遊びや生活をおこなえるようになっていくことは人間形成の基盤をつくる上で重要であると考えられる。

現在，クラスの実態として，意欲的に遊びに取り組むことはできるが，クラスの全体活動において皆で集って話しを聞くことや歌，集団遊び，話し合いで何かを決める際も，集団の輪に入らない子や途中からぬけだす子の姿が見られる。その理由に「他にやりたい遊びがある」「自分の遊びが中断してしまうのは嫌」「やりたくない」「興味がない」「つまらない」「どうせ負けるから」等，学級全体でおこなう活動に否定的な子も見られ，集団で行動することの楽しさが実感できず仲間意識が十分に育っていない様子が伺える。

このような実態において，教師は幼児に全体で活動する楽しさや喜び，クラスの友達とかかわる楽しさや喜びを実感してもらうために，これまで何度も声かけをしたり，やや強制的に学級集団の中に入れるように指示してきた。そのような場面を振り返るたびに，一人一人の特性を十分に理解していただろうか，友達と一緒で楽しいという互いの関係性はどうであったか，友達がやっていることに「楽しそうだな」「やってみたいな」と思えるような雰囲気づくりができていたか。幼児理解が十分であったか，学級が幼児にとって居心地のよい場所であったかと改めて気づかされた。幼児が「みんなでいると楽しい」と感じ，学級が「居心地のよい場所」と感じることができるような援助や幼児間の関係づくりが必要であると痛感した。また，小学校へのつなぎとして，集団を意識した行動ができることも重要な課題である。

幼稚園教育要領解説「人間関係」内容(７)に『友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう』とある。そのためには，友達と様々な心を動かすできごとを共有し，互いの感じ方や考え方，行動のしかたなどに関心を寄せ，それらが行き交うことを通して，それぞれの違いや多様性に気付いていくことが大切である。また，互いが認め合うことで，より生活が豊かになっていく体験を重ねることも必要である。

教師が幼児一人一人を様々な視点から理解することで，幼児は安心して自分らしい動きができ、様々なことへの興味や関心が広がり，他者を意識しながら充実した遊びや活動ができるものと考える。そのために教師は幼児同士がかかわり合いながら，互いによさを認め合えるような環境の構成や援助を工夫することが重要であると考える。

そこで，教師は，幼児が互いのよさを認め合えるような環境づくりに努め，適切な幼児理解のもと，援助や環境の工夫をすることによって，学級が居心地のよい場所となり，仲間とのよりよい関係性が築くことができるであろうと考え本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

幼稚園生活において，幼児が様々な体験をし，友達との触れ合いを楽しめるような環境の構成や援助の工夫をすることによって，互いのよさを認め居心地のよい学級づくりができるであろう。

Ⅲ　研究構想図

県教育施策
１県教育振興計画（長期計画）
２夢・にぬふぁ星プランⅡ

市教育施策
根づくり教育の推進
「学びの育成」

学校教育目標
○よく聞き考える子
○仲良く遊ぶ子
○明るく元気な子

幼児の実態
・気の合う友達同士，遊びや活動を楽しむ子が多いが，学級活動や集団遊びにおいて，周囲を意識しない言動も見られる。

教師の実態
・幼児の実態把握に努め，保育実践をおこなっているが，個々への対応や仲間づくりにおいて，援助や指導に課題がある。

めざす幼児像
・様々な遊びや活動に楽しみながら取り組める子。
・友だちのよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わえる子。
・自己を発揮し，自信をもって行動できる子。

研究テーマ

互いのよさを認め居心地のよい学級づくりのための援助の在り方
― 仲間意識が育つ環境の工夫を通して ―

研究仮説
幼稚園生活において，幼児が様々な体験をし，友達との触れ合いを楽しめるような環境の構成や援助の工夫をすることによって，互いのよさを認め居心地のよい学級づくりができるであろう。

研究内容
１　認め合う仲間づくりについて
(1)互いのよさを認めよりよい関係性を築くとは
(2)自己発揮と遊びの充実について
(3)居心地のよい学級とは
(4)居心地のよい学級経営について
(5)協同する経験について
(6)豆腐集団と納豆集団について

２　環境を構成する視点について
(1)興味や欲求に応じた環境について
(2)様々な体験について

３　教師の援助について
(1)教師のかかわりと幼児理解について
(2)教師の援助の視点について

４　幼児の実態把握と分析について

検証保育の計画・実践・分析・考察

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

Ⅳ　研究内容

１　認め合う仲間づくりについて

(1) 互いのよさを認めよりよい関係性を築くとは

園生活において友達と一緒に活動する楽しさを味わうようになるためには，幼児が互いのよさに気づき認め合えるようになることが前提にあると考える。自分とは異なる様々な個性をもった友達とのかかわりを通して，どのような過程で，互いのよさを認めるようになるのか『幼稚園教育要領解説』よりまとめてみた。

表１　互いのよさを認める過程

	過　　程
教師とのかかわりを通して	・愛情をもち，温かい目で見守る教師との生活において，安心して自分らしい動きができ，様々な物事への興味や関心が広がり，自分から何かをやろうとする意欲や活力が高まり，自信をもって生活する。 ・幼児の気持ち，遊びや実態，友達との関係など一人一人を深く理解し，その幼児の考えや行動のよいところを認め支える。 ・一人一人のよさや可能性を見いだし，幼児らしさを損なわず，ありのままを受け入れる。 ・幼児に対する教師の姿勢が周囲の幼児に伝わり，幼児自身も友達のよさに気付いていく。
友達とのかかわりを通して	・初めは「○○ちゃんは鉄棒が上手」「○○ちゃんは歌が好き」と表面的な特性に気づく。 ・しだいに「○○ちゃんならいい考えをもっていると思う」「気持ちのやさしい○○ちゃんならこうするだろう」と心情や考え方などの特性に気づく。 ・特性に応じてかかわるようになり，遊びの中で互いのよさが生かされる。 ・対話(聞く，伝え合う)をする中で，一人では思いつかないこと，自分の気づきを取り入れてくれる友達と遊ぶ楽しさ，「3 人寄れば文殊の知恵」で二者の対話では見えないことが，三者になることでさらに広がっていくおもしろさを味わう。一緒に遊ぶ楽しさや友達のいることの喜びを感じられるようになり，関係性が築かれる。 ・言葉で傷つけ，傷つけられる中で，言ってよいこと，いけないことを考えることが大事であることを知る。 ・友達の個性やよさが幼児なりに具体的な場で感じられるようになり，友達と認め，認められる関係が，幼児の自信につながっていき，さらに関係性が深まる。

以上のことから，幼児は，教師との信頼関係の下，友達との様々なかかわりを通して，互いのよさを認めるようになり個から仲間へ意識していくと考える。

(2) 自己発揮と遊びの充実について

子どもは遊びの中で様々な経験を積み重ね，遊びの中で学ぶといわれている。子どもが園生活において，人とのかかわりを深めていくようになるためには，まず一人一人の遊びや活動が充実し，自己を発揮することが重要であると考える。

幼稚園教育要領第１章総則では，５歳児の発達には，自我の芽生え，他者の存在を意識するなど，自己を抑制しようとする気持ちの生まれが必要としている。充実した遊びを展開していく中で，様々な人とのかかわりや経験から何が育つのか，森上史朗著「保育内容人間関係」よりまとめた。

表２　人とのかかわりから育つこと

①自分の気持ちを抑えること（自己抑制）	遊びの中のいざこざは，子ども同士が自分の気持ちを抑えられないことによって生じる。また，子どもの「ああしたい，こうしたい」という要求と要求がぶつかり合っていざこざなどのトラブルになることもある。そうしたトラブルも含む様々な経験を通して，子どもは少しずつ，叩いたり蹴ったりなどの身体攻撃をしないこと，悲しい気持ちや悔しい気持ちなどの感情を爆発させずに我慢すること，相手と妥協すること，ルールに従うなどの経験を通し，自分の気持ちを抑えることを学んでいく。
②自分の気持ちを出すこと（自己主張）	教師や他の幼児に自分の気持ちを表さないことには，遊びの中で自分の思いを実現したり，遊びの楽しさを味わったりすることができない。また，遊びの中で子ども達が「ああしたい」「こうしたい」ということを主張し合うことは，子ども達がお互いに他の幼児が何を考えているのか，気づくために重要である。したがって子どもは自分の気持ちを出すこと＝主張することも身につけていく必要がある。
③他者の気持ちに気づくこと（思いやり）	他者の気持ちに気づくということは，自分の立場からだけで物事を見るのではなく，相手の立場に立って物事を見ることや，他者の気持ちを自分のことのように感じることなどに通じる。そうしたことから，他の子に物を貸してあげたり，いざこざで泣いた子どもを慰めたりするというような，他者の気持ちを思いやるような行動が遊びの中で見られるようになる。

以上のことから，充実した遊びを通して，基本的な人とのかかわりが身についていくと考える。

(3) 居心地のよい学級とは

森上史朗著「保育内容人間関係」において，幼稚園での子どもの生活の基地は，自分の学級であると解説している。幼児の「心のより所」として，困難に出合っても戻ってきて心を癒し，新たな活力をたくわえる場として存在する園生活の基地であると捉えた。また,「クラス集団の育ち」と「一人一人の成長」は対極にあるのではなく，同じ線上にあり，一人一人のよりよい変容が学級集団を育て，またそのことが，一人一人の子どもを成長させることにもつながるとしている。

そこで，教師は，一人一人の子どもの思いをあたたかく受け止め，子どもが心を通わせながら仲間としてつながっていき学級の中で「自分が受け入れられているのだ」という実感が持てるような援助をおこなうことが大切であると考える。

また，学級という基地から，園生活の中で自由に羽ばたいて活動した後，“ひと息入れたくて帰ってきたり”，“疲れたり傷ついた心を癒しに帰ってきたり”するときにホッとするような場や“友達とのトラブルがあっても帰ってきたい”と思える場所であるということが，居心地のよい学級であると捉える。互いのよさを認め，居心地のよい学級づくりをおこなうための，様々なキーワードを図１に表した。

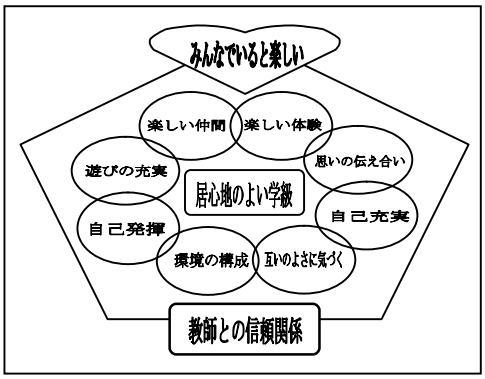


図１　居心地のよい学級づくりのキーワード

(4) 居心地のよい学級経営について

居心地のよい学級では，幼児が安心して伸び伸びと過ごせる場でなければならないと考える。そこで，教師は，子ども同士の好ましい関係や子どもと教師の信頼関係，子ども達が安心して自分の力を発揮し，よりよい人間関係を築いてくために，学級経営において次の点に留意する必要があると考える。

表３　居心地のよい学級経営

①信頼関係を築く （心が安定）	教師が幼児をありのまま受け入れ，幼児のよさを認め，一人一人に丁寧にかかわる。その時々の幼児の心情，喜びや楽しさ，悲しみ，怒りなどに共感し，こたえていく。そのような中で，幼児は情緒が安定し，心を開くようになり，教師との信頼関係が築かれ，様々な遊びに取り組めるようになる。
②自己肯定感を育む （みんなの中の 自分を意識）	幼児がやりたいことを見いだし，意欲的に取り組むことを教師が受け止め，よさを認めていく中で，幼児は自己肯定感を味わう。そのことで情緒が安定し，他児とかかわり，様々な活動を展開する中で，さらに新たな意欲へつながる。
③よりよい人間関係を 築く工夫 （仲間の広がり）	幼児は自分の話を聞いてほしい気持ちが強く，教師と一対一のやりとりになりがちである。その際，教師が他者を意識させていくような言葉かけや，幼児同士のかかわり合いの中で起こるぶつかり合いなど，様々な出来事に対して，互いの立場や役割を意識させるような援助が必要であると考える。幼児は自分と同じ趣味や嗜好をもつ友達と協力して活動していくことで，仲間意識が生まれ，よりよい人間関係を築いていく。また幼児のお互いの思いが否定されず，よさを認め合える雰囲気をつくることも大切である。
④学級集団としての まとまり （みんなで取り組む生活）	集団で一つのものを作ったり，役割を分担して一つのことを成し遂げたりする活動などを通して，仲間意識はさらに深まる。皆で協力し合うことの楽しさや，責任感，達成感を感じるようになる。集団活動を通して，自分達のもの，自分達の学級という意識が生まれ，幼稚園の中の友達やもの，場所などに愛着をもち，大切にしようという意識が生まれる。集団に入らず，一人でいる幼児については，その幼児の日々の様子をよく見て，心の動きを理解する。状況を判断し，その時に合ったかかわりをする。

(5) 協同する経験について

神長美津子著「新幼稚園教育要領の展開」によると，協同して遊ぶ経験は，一人一人が自己を発揮し自己を抑制することで，仲間やグループ，学級という集団をつくり，集団が一人一人の自信や人への信頼を育んでいくことであるとしている。

そこに友達同士や，教師，学級全員の響き合う心のつながりが生まれ，心の響き合い，つながり合うことの喜びが，生涯，人として生きていく基盤となると考える。協同する過程を「幼稚園教育要領解説」を参考に図２にまとめた。

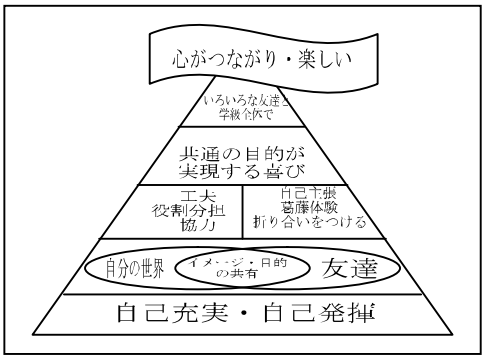


図 2　協同して遊ぶ過

【規範意識の芽生えを培う】

社会には，集団や場にきまりやルール，常識や社会通念など，人との生活を円滑にしていくための規範となるものがある。その規範の中で，幼児は自分の思いを表現したり，個性や力を発揮したりしながら，生きる充実感を味わっていく。幼児期においては，集団生活の中で家庭とは違った生活のしかたやきまりがあることに気づいていくと考える。その過程で，自分の思い通りにならない葛藤やつまずきの中で，我慢したり折り合いを付けたりする体験をする。そのような体験の積み重ねを通し，約束事の大切さを知ったり，自分の気持ちを調整したりして規範意識の芽生えが培われていくと考える。

その際に，教師は幼児がありのままの自分が受け入れられている，大切にされている，必要とされているという安心感を育むことが重要であると考える。幼児に体験を通して人とよりよく生活するために必要なことを気付かせたり，友達と遊びを楽しく進めていくためにはルールを守る必要性をわからせたり，自分の感情を調整したりする気構えを育てることが大切であると考える。

(6) 豆腐集団と納豆集団について(個の充実と集団による育ち合い)

「集団」の育ちを促すということを考える際, 学級をまとめて運営することばかりに注意が注がれ, 集団がつくられていく過程が無視されたり，個々が見失われたりすることがある。

今井和子著「友達関係の育ちとあそび」において，個と集団の育ちを以下の様に捉えている。

表４　豆腐集団と納豆集団の違い

豆腐集団	・一つ一つの豆をすりつぶし，個は原形とどめておらず，型にはめて作った見かけ(形)だけの集団。 ・“みんな一緒”の画一的な保育になりがちである。また自分らしさが発揮できない。 ・集団から外れる子は社会性が弱いと問題にされがちである。
納豆集団	・一つの豆が生きていることをもとに，それぞれが必要に応じて糸を引き合い，心を通わせながらつながり合っていく。 ・個性を大事にしながら糸を出し合っていくことで，やがて糸が絡み合いコミュニケーション力が育ち，まとまり(集団)もできてくる。 ・「個」の育ちにそって時間をかけ共に育ちあえる「集団」になる。

以上のことから，教師は，集団の中で，友達関係の育ちを支えていく際に，「個」を育てながら人と人とがかかわる喜びを実感させていくことが大切であると考える。

2　環境を構成する視点について

(1) 興味や欲求に応じた環境について

幼児が環境に主体的にかかわり，活動を展開するために，その環境が幼児の興味や欲求に即したものでなければならないと考える。幼児は，環境とかかわることによって自分の興味や欲求を満足させながら，自分で課題を見いだして，それを乗り越えることによって充実感や満足感を味わう。

幼児が生活の中で，葛藤，挫折などの体験をしたり，達成感や満足感を味わったりすることが発達を促す上で大切なことであり，幼児が自分の力で乗り越えられるような困難といった要素も環境の中に含める必要がある。

以上のことから，教師は，園生活において幼児が仲間とかかわり合いながら課題を乗り越えられる場面，達成感や満足感を味わう場面など，様々な体験をする状況をつくり出す環境の構成をすることが必要であると考える。

(2) 様々な体験について

幼児が心身ともに調和のとれた発達をするためには，多様な体験を重ねることが大切であると思われる。あることを体験することにより，幼児自身の内面の成長につながることが大切であり，このようなことが生じるのは，幼児が心を動かされることによるものと考える。

心が動かされるというのは

驚いたり，不思議に思ったり，嬉しくなったり，怒ったり，悲しくなったり，楽しくなったり，面白いと思ったり等，様々な情動や心情がわいてくること。

このような情動や心情を伴う体験とは，幼児が環境に引きつけられ，それにかかわることにより得られる。また，教師や友達と共有し，共感することにより，より一層高められ，園生活において，幼児は互いに影響し合いながら様々なことを学んでいくものと思われる。

そこで，教師は，幼児にとって豊かな体験が生まれるように，様々な体験を意図的・計画的に環境の構成をすることが大切であると考える。その環境に幼児が主体的にかかわり，友達と一緒に体験を積み重ね，様々な感情を体験し，それを乗り越えていくことで，それが幼児の経験となり，新たな興味や関心が湧き，次への活動の動機付けになっていくと考える。

このように，幼稚園生活で過ごす一日の中で，ごっこ遊び，砂場遊び，リズム遊び，運動遊び，ゲーム，おやつ，弁当，当番活動，製作活動，飼育栽培活動，クラスでのひととき，誕生会の行事など，体験や経験すべてが，幼児にとっての様々な体験となると考える。

そこで，園生活において，幼児が心を動かされる様々な体験を通して，活動が楽しいと感じその楽しさを友達と共有することで，仲間意識が育ち，しだいに仲間の輪が広がるものと考える。

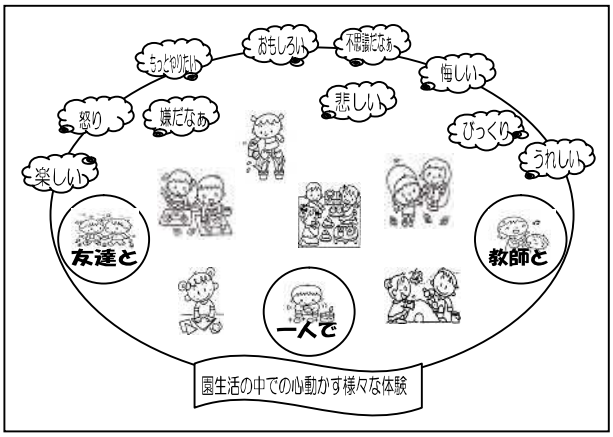


図 3　心を動かす様々な体験

3　教師の援助について

河邉貴子著「遊びを中心とした保育」では，教師の援助について，小川博久によると，「保育者の指導は原則的に援助でなければならないとしている。『援助』とは，幼児とどうかかわることが可能なのか，見極めた上で，子どもが望ましい状態に達してほしいと願いをもって，子どもにかかわることである。」と述べている。子どもの人間形成の道筋を見極め，その延長線上に援助の可能性があるとし，教師があらかじめ決めた道筋に子どもを乗せることではないと捉えている。

また，教師は常に子どもを取り巻く環境(家庭，地域等)も視野にいれて保育を構成する。つまり，家庭とも連携をとりながら，子どものよりよい発達を遊びや生活を通して援助するのであると述べている。このことから，教師には，「自分の援助行為と，幼児の実態との関係を見極めながら自分の保育を振り返る」力が必要とされている。

そこで，教師は画一的な援助ではなく，一人一人の子どもの特性を把握した援助をおこない，また家庭と園での子どもの様子を伝え合い，共有することで，同じ気持ちで援助していくことが，重要であると考える。

(1) 教師のかかわりと幼児理解について

保育を進めていくにあたり，教師は幼児が何に関心を抱いているのか，何に意欲的に取り組んでいるのか等の幼児理解が重要である。望ましい方向に幼児の発達を促すようにするために，必要な視点として以下の 3 点を挙げてみる。

表 5　幼児理解について（文部科学省　幼児理解と評価より）

◎幼児理解からの出発	幼児が発達に必要な経験を得るための環境の構成や教師のかかわり方は，幼児理解にも大きく影響する。そのためには，安易に分かったと思い込んだり，この子はこうだと決めつけたりしてしまうのではなく，幼児と生活を共にしながら「…らしい」「……ではないか」など，表面的に現れた行動から内面を推し量ってみることや，内面により沿っていこうとする姿勢が大切である。幼児を理解することが保育の出発点となり，そこから，幼児一人一人の発達を着実に促す保育が生み出されてくるのである。
◎温かい関係を基盤に	幼児期の特性を踏まえて，常に教師と幼児の温かい信頼関係に満ちたものにしていくことが重要である。黙って周囲の動きを見つめている幼児の姿も，相手の話に聞き入る姿も，その幼児が能動的に周囲の環境とかかわっている姿として受け止めることが大切である。教師には幼児の行動や心の動きを温かく受け止め，理解しながら，幼児との間に信頼関係を築くことが求められている。幼稚園においては，そうした教師と幼児の温かい関係が，幼児の発達を促す上で重要な意味をもつことを踏まえて保育を展開することが必要である。

◎一人一人の特性に応じた教育	幼児の発達する姿は，たとえ同年齢であってもそれぞれの幼児の生活体験や興味・関心などによって一人一人異なっている。毎日の保育の中では，それぞれの幼児の生活する姿から，今経験していることは何か，また，今必要な経験は何かをとらえ，それに応じた援助をすることが大切である。教育に求められるものは，人間を画一的に育てることではなく，自分らしさを発揮し，心豊かに意欲をもって生きることのできる人間の育成である。幼稚園では，行動のしかたや考え方などに表れたその子らしさを大切にして，一人一人の幼児が，そのよさを発揮しつつ，育っていく過程を重視していくことが大切である。

(2) 教師の援助の視点について

一人一人の幼児理解のもと，互いのよさを認め合うための援助の視点を，濱名浩著「保育内容人間関係」よりまとめた。

表６ 「互いのよさを認め合う」ための教師の援助の視点

教師の援助	視　　点
○「友達と共感する」ための援助	・一人一人の子どもが自分の思いを十分に発揮し，安心して自分のやりたいことに取り組むことができるようにする。 ・自分で気の合う友達を見つけることができるように見守ったり，友達関係を紡いだりなどの援助をする。 ・友達と様々な感情の交流をすることができるようにする。 ・教師自身が共感的な姿勢で過ごすモデルとなる。
○「お互いの思いの伝え合い，相手の思いに気づく」ための援助	・安心して自分の思っていることを相手に伝えることができるようにする。 ・相手にも思っていることや言いたいことがあることに気づくことができるようにする。 ・教師は仲介役となり，互いの思いを伝え合うことができるようにする。
○「友達同士をつなぐ」ための援助	・友達と様々な心を動かすできごとを共有し，互いの感じ方や考え方，行動の仕方などに関心を寄せることができるようにする。 ・お互いの感じ方，考え方，行動のしかたなどの違いや多様性に気づくことができるようにする。 ・お互いが認め合うことで，より生活が豊かになっていく体験を重ねることができるようにする。 ・よき理解者として，一人一人の子どもに愛情をもって温かい目で見守り，教師自身が一人一人のよさを認める。
○「友達への憧れと認め合い」を育むための援助	・一人一人の子どものありのままの姿を受け止め，十分に自分を発揮して過ごすことができるようにする。 ・一人一人の子どものよさを認め，他の子どもたちに伝える。 ・一人一人の思いを受け止めながら，心のつながりのある友達関係を醸成していく。

４　幼児の実態把握と分析について

(1) 実態調査アンケート

① 調査目的　幼児の家庭や園生活における遊びの様子の実態を把握し，本研究の資料として役立てる。

② 調査対象　ア　大山幼稚園○○組 28 名の保護者　21 名回収(回収率：75%)　記名あり

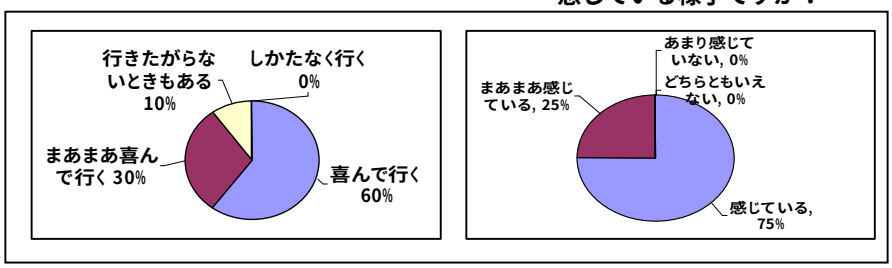
イ　大山幼稚園職員　7 名(回収率：100%)

③ 調査日：平成 23 年 11 月 16 日

(2) アンケートの結果と考察

《保護者へのアンケートから》(全 15 問中 3 問を抜粋)

質問１　登園時の様子はどうですか？　質問２　お子さんは幼稚園を楽しいと感じている様子ですか？



【考察】

質問 1, 2 から「喜んで行く」「まあまあ喜んでいく」の回答を合わせると 9 割いることから，園生活に期待を持って登園して来ることがわかる。

また，ほとんどの子が幼稚園を「楽しい」または「まあまあ楽しい」と感じていることから，園で遊びや活動することを楽しんでいることがわかる。

質問５　幼稚園に期待することがありましたら教えて下さい。(自由記述)

回答の内容	%
友達とのかかわり方を学べる場であってほしい みんなと楽しく過ごせる場であってほしい 友達とのつながりを楽しめるようになってほしい 多くの友達（いろいろな性格の子）と仲良くできるようにしてほしい	25%
集団での遊び（行動）のルールを教えてほしい	20%
リズム，手遊び等，たくさんおゆうぎを教えてほしい	20%
間違ったことをしたときはしかってほしい（善悪の判断）	10%
いろいろな体験をさせてほしい	5%
話を聞く態度も身につけさせてほしい	5%
生活習慣を身につけさせてほしい	5%
ひらがな，カタカナが書けるようになったらいいな	5%
その日の園での様子がわかるようにしてほしい	5%

【考察】
保護者から，よく文字指導に関する質問を受けていることから，小学校就学に向けての文字指導に対する関心が高いと思っていた。しかし，友達とのかかかわり方や集団生活のルールを身につけることを重要視している保護者が多く，幼児期の人とのかかわりの大切さを優先していることがわかる。

質問６　お子さんにはどのような子に育ってほしいですか？（自由記述）

回答の内容	件数
思いやりのある優しい子　素直な子 人の気持ち，心が考えられる子	19
健康で元気な子，活発で伸び伸び活動できる子	5
何事にもチャレンジし，くじけない子	3
あいさつができる子	2
芯のある子，心の強い子	1
状況判断のできる子	1

【考察】
「思いやりのある優しい子，人の気持ち，心が考えられる子，素直な子」に育ってほしいと思う家庭が多く，情意面に気を配っていることが伺える。

《職員へのアンケートから》(全７問中２問を抜粋)

質問１　個への対応において，どのようなことで，困ったり悩んだりしていますか？

【回答】主な回答は次の通りである。
- ○子どもの行動や，思い，気持ちを読み取ることが難しい。
- ○活動に参加したがらない子へ，どのような手立てをすれば，活動に参加したくなるのか。
- ○活動の際，今は我慢させて頑張らせるべきか，一呼吸置き，その子のペースで進めるか等の判断を見極めることが難しい。
- ○マイペースな子，おとなしい子，自分へのこだわりが強い。
  ・・・等どう友達とつなげたらよいか。
- ○個への対応も丁寧におこないたい，学級全体のことも気になる。
- ○周囲の状況を気にせず，行動してしまう子への対応。
- ○言葉よりも先に手が出てしまう子への対応。

【考察】
各教師が，個を大切にしながら，学級づくりをすることに悩んでいることがわかった。教師同士の意見や情報交換を十分におこない，改善を図りたい。

質問２　子ども同士のつながりを感じるのはどんなときですか？

【回答】主な回答は次の通りである。
- ○一つのものにみんなで取り組み応援している時。
- ○子ども同士で協力し合ったり，教え合ったり，相談し合ったり，助け合ったり，励まし合ったり，互いに心配（気にかけている）し合っている時。
- ○友達の意見に賛成している時。
- ○友達と声をかけあって，協同作業している時。
- ○いざこざがあってもすぐに仲直りをして遊べる時。
- ○教師に友達の良い場面を伝えに来たり，友達の困っている様子を伝えに来てくれた時。
- ○教師の力を借りず，自分達で遊びや生活を進めていこうとする姿が見られた時。

【考察】
どの教師も，子ども同士が応援し合ったり，教えあったり，協力し合ったり，友達のよい所を教師に伝えに来たり，協同作業している場面等を見て，子ども同士のつながりを実感している。
今後ますます，つながりが大きな輪となり，充実した園生活が送れるように教師間の連携を密にしていきたい。

【アンケート全体を通しての考察】

アンケートの中から，幼児が幼稚園生活に期待をもち，遊びや活動をすることを楽しみにしていることが伺えた。
しかし，学級での様子を見てみると，学級活動に参加したがらない幼児がいて，幼児の実態と教師の間にずれがあることがわかった。園に夢と希望をもって登園してくる幼児の思いを教師はしっかりと受け止め，幼児一人一人が充実した遊びを展開していけるような援助や環境の構成の工夫改善を図る必要性を痛感した。
また，保護者の園に期待する項目について，友達とのかかわりを重視している家庭が多いことがわかり，教師の思いとほぼ一致していることがわかった。今後，家庭と協力しながら願いがかなうように指導していきたい。

Ⅴ　検証保育

１　活動計画

学級の実態では，子ども一人一人の遊びや気の合う少人数の遊びでは満足している様子が見られるが，学級全体での活動になると，自制心や仲間意識が十分に育っていない場面が見られる。子ども達が互いのよさを認め，学級が居心地のよい場所と感じるようになるために，楽しく一緒に行動する触れ合いや心の触れ合う場面が少なかったと考える。そこで，教師が意図的に，友達と触れ合いながらみんなと取り組むことの楽しさを感じることができる時と場，教材を設定し，そこから生まれる感情や雰囲気を教師や友達と共有する機会を設定していく。

そこで，気の合う同士だけでなく，仲間に広がりができるような「フォークダンス」「リズム遊び」「集団ゲーム」「手遊び」等の触れ合う活動を意図的に計画し，取り入れることにした。

月　日 【 遊びの場 】 (活動の時間)	ねらい	活動内容	☆教師の援助　　●環境の構成
① 12/20（火） 【保育室】 (学級活動)	○友達との触れ合いを楽しみながら，みんなで取り組む楽しさに気づく。	・2 人組になりリズム「あくしゅでこんにちは」をする。 ・フォークダンス「ジングルベル」をクラス全体で楽しむ。 ・2 人組になり「あなたへメリークリスマス」の手遊びをする。 ・友達と 2 人組になったり，学級全体で手をつないで輪をつくったり，友達と触れ合いながら手遊びやリズムを楽しむ。	●子ども達が興味をもっている季節の行事クリスマスにちなんだ手遊びやフォークダンスをする。 ☆友達と触れ合いながら，手遊び，フォークダンスを楽しむことで，みんなで一緒に活動する楽しさを感じられるように，言葉かけや教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大切にする。 ☆興味がない子や苦手意識をもっている子には，その時の様子や状況に応じて丁寧にかかわり少しずつ興味ももてるようにする。 ●よかった場面を学級全体で共有することで，一緒に活動する心地よさを感じられるようにする。
② 1/10（火） 【保育室】 (学級活動)	○軽快な曲に合わせ，いろいろな友達との触れ合いを楽しみながらダンスをする。	・2 人組になり「あくしゅでこんにちは」のリズム遊びをする。 ・フォークダンス「セブンジャンプ」「タタロチカ」「ロンドン橋」を踊る。 ・友達と 2 人組になったり，学級全体で手をつないで一つの輪を作ったり，軽快な曲に合わせ，友達との触れ合いを楽しみながらダンスをする。	●円をつくる際に，気の合う友達だけでなく，誰とでも手がつなげるようになり，様々な子とかかわりを持つことができるように工夫をする。（洋服の色，誕生月，名前の頭文字の順等） ☆友達と触れ合いながら，フォークダンスを楽しむことで，みんなで一緒に活動する楽しさを感じられるように，言葉かけや教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大切にする。 ☆興味がない子や苦手意識をもっている子には，その時の様子や状況に応じて丁寧にかかわり少しずつ興味がもてるようにする。
③ 1/11（水） 【保育室】 (学級活動)	○わくわくカードを使って，パートナーをつくる楽しさから，誰とでも触れ合う楽しさに気づく。	・フォークダンス「セブンジャンプ」「じゃんけんミキサー」を踊る。 ・わくわくカードを用いて，楽しみながら 2 人組のパートナーをつくる。 ・パートナーとじゃんけんで何を出すのか相談し，相手とのやり取りを楽しむ。 ・じゃんけんの相手が変わることで，様々な子とかかわり，友達と踊りやじゃんけんをすることを楽しむ。	●パートナーをつくる際に，気の合う友達とだけではなく，誰とでもパートナーを組むことができるように配慮する。友達のつながりが広がるよう，わくわくカードを用いて誰とパートナーになるのか，楽しみながらパートナーをつくるようにする。 ☆友達と触れ合い，相談し，教え合いながら，フォークダンスを楽しむことで，みんなで一緒に活動する楽しさや，みんなと一緒にいると気持ちがいいと感じられるように，言葉かけや教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大事にする。
④ 1/16（月） 【保育室】 (おやつ後)	○気の合う友達と，踊りやじゃんけんを楽しむことで，みんなで活動する楽しさを味わう。	・フォークダンス「じゃんけんミキサー」を踊る。 ・パートナーと，じゃんけんで何を出すのか，相談しながら，対戦相手とのやり取りを楽しむ。 ・気の合う友達と組み，安心した気持ちで，活動が楽しいと感じることで，みんなで活動する楽しさを味わう。	●前回，参加できなかったＹ男とＲ男の気持ちの変容の確認と，「もう一度やりたい」という他児の気持ちを受けて，再度，「じゃんけんミキサー」をやることにした。 ●おやつ後の，ゆったりとした時間であることと，みんなで活動する楽しさを共有することをねらいとし，好きな友達とパートナーを組むようにする。 ☆Ｙ男とＲ男が気の合う友達と活動を楽しむことで，活動の楽しさを知り，「次もやってみたい」と思えるよう，言葉かけや援助を心がける。

⑤ 1/17(火) 【保育室】 (学級活動)	○遊びを楽しく進めていくために，ルールを守ることの大切さに気づく。	・フォークダンス「じゃんけんミキサー」を踊る。・『いすとりゲーム』をする。 ・学級で相談しながら，ルールを決める。 ・座れなかった友達の名前を呼び合い，助けたり，応援しながら学級のたくさんの友達と触れ合ったりして関わる。 ・遊びを楽しく進めていく為に，ルールを守ることの大切さに気づく。みんなで考えた新しいルールで，ゲームを楽しみ，みんなと活動する楽しさを感じる。	●誰とでも触れ合ったりしながら，仲間を意識して遊びを進め，つながりが感じられるような言葉かけや援助をする。 ●1学期におこなった『いすとりゲーム』のルールに変化をつけて，学級全体の友達と名前を呼び合ったり，助けてあげたり，応援したり，声をかけ合ったりしながらつながりを感じ，学級の友達を意識できるようにする。 ●集団遊びにおいて，楽しさを気づかせるために，ルールを守ることの大切さに気づかせていく。 ☆ひざの上に座ることを躊躇している子には，個に応じて具体的にアドバイスしていく。
⑥ 1/19(木) 【保育室】 (学級活動)	○みんなで遊びを楽しくするために，ルールを守り遊ぶ楽しさを味わう。	・2人組をつくり「あんたがたじゃんけん」をする。 ・4，５名のグループに分かれ，かるた遊びをする。 ・グループ内で，ルールを確認したり，グループだけのルールをつくったりする。 ・ルールの思い違いや，思い通りにいかない葛藤から，トラブルになることもあるが，グループ内で解決しようとする。遊びを楽しく進めていくためにはルールを守ることの大切さに気づいていく。	●わくわくカードを用いて，誰とでも2人組をつくることができ，友達とのつながりが広がるようにする。 ●いつも遊びを共にしている仲間だけではなく，様々な友達とかかわりを持てるように，当番活動や弁当を共にしているグループでかるた遊びを行い，グループ内のつながりを深められるようにする。 ☆仲間を意識して遊びを進め，友達のよさやつながりが感じられるような言葉かけや援助をする。 ☆遊びの中で起こるトラブルや葛藤体験では，子ども達同士で解決していくよう見守りながら，必要に応じて互いの気持ちを受け止め，互いの思いに気づいていけるよう仲立ちをしていく。みんなで活動する楽しさを味わうために，ルールを守ることも大切であることに気づけるようにする。
⑦ 1/20(金) 【保育室】 (学級活動)	○誰とでもグループをつくり，仲間を意識しながら，勝敗を楽しむことで友達とのつながりを感じる。	・わくわくカードで2人組をつくりリズム「あんたがたじゃんけん」をする。 ・グループ対抗大型かるた遊びをする。 ・みんなでルールを相談する。 ・グループをつくり名前を決める。 ・順番を待つことができる。 ・チームの友達と協力することで，仲間を意識しチームが団結してくる。 ・勝ち，負けのチームがあるが，みんなで力を合わせた経験を通して仲間のよさを感じる。	●わくわくカードで，誰とグループになるのか楽しみにできるようにする。様々な友達とかかわり，誰とでもグループをつくり，友達とつながりを深め，友達のよさに気づけるようにする。 ●かるた大会をトーナメント形式にしたりグループ名を決めることで，グループ内が団結したり協力しようとする気持ちになるようにする。 ●黒板にグループ名やトーナメントの表を書き，視覚に訴えるようにすることで，子供たちの大会への気持ちを高めることにより協力して楽しめるようにする。 ☆仲間を意識して遊びを進め，友達のよさやつながりが感じられるような言葉かけや援助をする。
⑧ 1/23(月) 【保育室】 (学級活動)	○チームでの勝敗を楽しみ，友達とのつながりを深める。 ○学級全体でおこなう活動に意欲的に取り組み，仲間意識を育む。	・2人組になりリズム「じゃんけんミキサー」をする。 ・そら組大型かるた大会をする。 ・ルールを確認する。 ・楽しみながら2グループに分かれる。 ・仲間を応援する気持ちが芽生え，気の合う友達だけではなく，チームの仲間を応援するようになる。 ・勝ったチーム，負けたチームもあるが，みんなで１つの目的に向かい力を合わせた経験や教師や友達とともに過ごす喜びを味わうことができたことで友達のよさを感じる。	●遊びのスムーズな展開や勝ち負けを楽しませるために，読み手は教師がおこなう。 ●チーム分けでは，誰とでもかかわりを持つことができることを念頭に置き，子供たちが楽しみながらグループをつくれるよう配慮する。 ●黒板にグループ名や合計枚数を書いて，数，順位などに気づかせるようにすることで，勝負への気持ちを高め，チーム内が団結し協力して，臨めるようにする。 ☆みんなで一緒に活動する楽しさや，みんなと一緒にいると気持ちがいいと感じられるように，言葉かけや教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大事にする。
⑨ 1/24(火) 【保育室】 (学級活動)	○イメージを持って，体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことで，教師や友達とともに過ごす喜びを感じる。	・鬼ごっこ「おおかみと七ひきのこやぎ」を楽しむ。 ・おおかみ（鬼）とこやぎ（逃げる）の役に別れ，思い切り体を動かして遊ぶ。 ・広い体育館で，仲間と思い切り体を動かして楽しさを味わうことで，みんなで取り組むことの心地よさを感じる。	●絵本『おおかみ七ひきのこやぎ』の読み聞かせや，少人数のグループに分かれ，おおかみとこやぎになりきって遊ぶことで，イメージを共有し，遊びに期待がもてるようにする。 ●広い体育館で，思いきり体を動かして遊ぶ充実感を仲間と共有することで，みんなで過ごす心地よさを感じられるようにする。 ☆おおかみとこやぎの役に分かれることで，仲間意識を持ち，協力しながら遊べるようにする。
⑩ 1/26(木) 【保育室】 (学級活動))	○楽しみながら仲間づくりを経験することで，教師や友達とともに過ごす喜びを味わう。	・集団ゲーム「せんたく」をする。 ・友達同士，名前を呼び合いながら，新しい仲間を見つけていく。 ・誰とでもグループをつくり，楽しい気持ちを共有することで，友達とのつかながりを深める。	●楽しみながら仲間をつくるゲームを取り入れることで，自然に友達と触れ合い，つながりが持てるようにする。 ☆グループをつくる際に互いの名前を呼び，助け合うことを意識させながらおこなうようにすることで，仲間とのつながりをより深められるよう声かけや援助をする。

2　仮説の検証

研究仮説に基づき保育実践を通して，幼児が互いのよさを認め，仲間意識が育つような環境の構成や援助の工夫ができたかについて，著しく変容の見られた幼児２名の姿と学級全体の変容をもとに検証する。

研究仮説

幼稚園生活において，幼児が様々な体験をし，友達との触れ合いを楽しめるような環境の構成や援助の工夫をすることによって，互いのよさを認め居心地のよい学級づくりができるであろう。

	幼児の姿	教師の願い
Ｙ男の様子	◎話を聞く態度もよく，学級を意識した行動ができる。 ◎集団活動（リズム・ゲーム等）や友達との触れ合いを強く拒否する。	☆自己発揮しながら，自信をもって行動してほしい。 ☆仲間と触れ合う活動を通して，みんなと活動する楽しさを味わってほしい。 ☆意欲的に学級活動に参加できるようになってほしい。
Ｒ男の様子	◎友達のいいところを素直に褒める。 ◎興味のある活動に意欲的に参加し，楽しむ。 ◎集団活動において，自分の思い通りにいかないことがあると，活動を否定したり，活動に参加しないことがある。	☆集団を意識した行動ができるようになってほしい。 ☆思い通りにいかないことがあっても，自分の気持ちに折り合いをつけられるようになってほしい。 ☆自己発揮しながら，相手の思いにも気づき，協力し合える仲間づくりができるようになってほしい。

第１回目　12 月 20 日(火)　学級全体での活動【フォークダンス「ジングルベル」】

・友達と触れ合いながら，手遊び，フォークダンスを楽しむことで，みんなで一緒に活動する楽しさを感じられるように，言葉かけや教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大切にする。
・「やってみたい」という気持ちの生まれを大事にしたいので，その子なりの参加のしかたを認めるようにする。

環境の構成・援助

集団活動に参加できるようになってきているＹ男

教師：誰とでも触れ合いを楽しむことができるよう，隣同士並んだ子とパートナーを組むようにした。
Ｙ男：始めは，照れていたが，相手の子のリードもあり笑顔で活動に参加し，ダンスを楽しんだ。

活動を振り返って

◇女の子とのパートナーであったが，スムーズに参加することができた。今回は，隣同士で座っている子とパートナーを組んだことで，自分でパートナーを見つけなくていいことから，安心して活動に参加できたのではないかと思われる。
◇以前と比べて，集団活動に参加できるようになってきている。いろいろな仲間とかかわることで，友達と過ごす楽しさを味わってほしい。

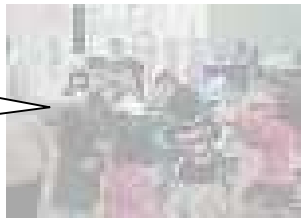
踊ってみたくなったＲ男

Ｒ男：活動が始まると，集団から抜ける。「おもしろくない，やりたくない」と言って，絵本を見始める。
教師:「やってみないと,楽しいかどうかわからないよ」と活動に誘う。
Ｒ男：「楽しくない」と背を向けて，絵本を見る。
教師：「じゃあ今日は，みんなのことを見ていてね。やりたいと思ったら，きてね。」Ｒ男に活動の様子を見せることで，やってみたいという気持ちになることを願いながら，活動を開始する。
教師：踊りの説明を，Ｒ男の仲のよい子達にお願いする。
Ｒ男：友達が楽しそうに踊っている様子を，じっと見ている。
Ｒ男：いよいよ開始，慌てて輪の中に入り参加する。友達を引っ張ったり，順番がばらばらだったりするが，本人は楽しそうに参加する。

活動を振り返って

◇Ｒ男の気の合う友達に手伝いをしてもらい，楽しく踊る姿を見せたことも，参加したくなる理由になったと思う。
◇Ｒ男は，やったことのない活動に自信がないのかもしれない，友達が踊っている様子を見て，自分もできると思い，参加したのだろう。自信が持てるようにＲ男のよさをみんなの前で伝えたり，認める場面を多く持つようにする。

走れソリよー♪。
ヘイ！！



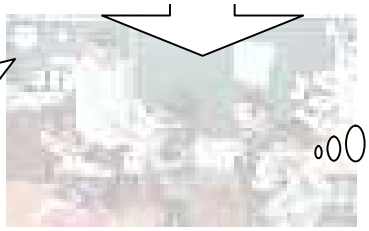
第３回目　1月11日(水)　学級全体での活動【フォークダンス「じゃんけんミキサー」】

・気の合う友達とだけでなく，子ども達が楽しみながら誰とでもパートナーを組むことができるように“わくわくカード”を用いてパートナーをつくるようにする。
・新しいパートナーと相談したり，協力しながら楽しい気持ちを共有することで，誰とでも触れ合う楽しさに気づけるようにする。

環境の構成・援助

初代わくわくカード
同じカードを引いた子とパートナーとなる。

みんなで，一緒に見ようね。



パートナーは誰かな？

声をかけ，カードを見せ合いながらパートナー探し

気持ちが向かないＹ男

Ｙ男：前回のダンスには参加できたが，今回は，パートナーのくじは引くが,「やりたくない」と参加しない。
教師：「先生と一緒にやろう」と誘うが，Ｙ男は困った顔をしている。
活動の楽しさを知ってほしい思いから，当日は，Ｙ男の気持ちを汲み取り，Ｙ男には活動している様子を見てもらい，「次はやってみようかな」と思えるような雰囲気づくりをすることを心がけた。

活動を振り返って

◇Ｙ男は，やりたくないと感じたら，そこからの気持ちの切り替えが難しい。始めの導入で，Ｙ男の「やってみたい」という気持ちの芽生えをキャッチする必要がある。パートナーを組む際，Ｙ男が心を許せる相手と組めるようにし，活動に参加することで，楽しさを味わう経験をさせたい。

Ｒ男の葛藤体験

Ｒ男：わくわくカードに興味を示し，早く活動に参加したい思いから，話を静かに聞き，仲間に話を聞くように注意をしている。
楽しみながらカードを取り，相手を探すが，気の合う友達とパートナーになりたい気持ちから，隠れてカードを交代する。友達からの話で，全員の注目が集まる。
教師：「Ｒ男さん，カード交代したの？」
Ｒ男：無言。ばつが悪そうである。
教師：「誰とパートナーになるのか，楽しむわくわくカードだよ」
Ｒ男：「こんなのおもしろくない。楽しくない。」
自分の思い通りにいかない怒りから,自身も楽しみにしていた活動から抜ける。教室の倉庫に入り,怒りの表情で,活動の様子を見ている。
教師：気持ちの切り替えをし，活動に参加してほしい願いから，Ｒ男の所へ話を聞きに行く。
「○○さんと，パートナーになりたかったんだよね？」
Ｒ男：うなずく
教師：「気持ちはわかるけど，先生はＲ男にたくさんの子と友達になってほしいな」「Ｒ男もカードでパートナーを見つけるのを楽しみにしていたよね？」
Ｒ男：「いいよ。楽しくない。やりたくない。」
教師：怒りは収まらず，気持ちの切り替えに時間を要しそうだったのと，楽しく活動するためには，自分の思いを通してばかりではなく，ルールを守ることの必要性を感じてほしいと判断し,「みんなの様子を見て，参加したくなったら来てね」と伝え，活動を開始した。
Ｒ男：じっと活動の様子を見ている。教師に視線を持ってきたり，倉庫のドアを触ったりして，存在をアピールしている。

活動を振り返って

◇わくわくカードに興味を示し，楽しそうに相手を探していたことから，活動自体には興味があることがわかった。
◇日頃，自分の思いを通そうとすることや，通らないと怒ったり，参加しないことがたびたびあった。前回まで，参加を促し，楽しさを味わって欲しい願いから，ルールを変えてでも参加を認めていた。今回は，ルールを守ることの必要性や，思い通りいかないとき，気持ちの折り合いをつけること，集団を意識した行動ができるようになってほしいとの願いから，全体の様子を見てもらうことにした。気の合う友達や，学級の仲間が楽しそうに遊ぶ姿をじっと見ているＲ男の姿から，活動に参加したい気持ちや，ルールの必要性を感じている様子が伺えた。
◇次回の活動に，参加する意欲が出できたことから，折り合いをつける気持ちが芽生えてきていると思う。

この日，Ｒ男は活動に参加しなかった。
活動終了後，Ｒ男の所に行き,「今日の活動前に，話を聞くことを頑張っていたこと，みんなに注意していたことが，うれしかったこと，一緒に遊びたかったこと。Ｒ男なら，たくさんの子と仲良く遊べると思うこと。次は一緒にやりたいこと。楽しく活動するためには，ルールも必要であること」を伝えた。Ｒ男は怒りの気持ちは落ち着き，教師の話を静かに聞くが，次回の活動は「やらない」と言った。
牛乳の時間になると，Ｒ男は教師の側に寄ってきて，服や牛乳について話しかけてくる。かかわりを求めてきていると感じ，穏やかな雰囲気で一緒に話をする。会話の後，「次は一緒にやろうね」と話すと，「うん」とうなずいた。

第５回目　１月 17 日　（火）学級全体での活動【おたすけいすとりゲーム】

・１学期におこなった『いすとりゲーム』のルールに変化をつけて，友達の名前を呼び合ったり，助けてあげたり，応援したり，声をかけ合ったりしながらつながりを感じ，仲間を意識できるようにする。
・集団遊びにおいて，楽しさを気づかせるために，ルールを守ることの大切さに気づかせていく。
・ひざの上に座ることを躊躇している子には，個に応じて具体的にアドバイスしていく。・ゲームの前に「じゃんけんミキサー」をおこない，仲間との触れ合いを楽しみ，つながりを深められるようにする。・わくわくカードにさらに興味をもち，相手を見つける楽しさが増すように，前回よりも子ども達の発達に合ったカードに変更した。

環境の構成・援助

２代目わくわくカード
１枚のイラストを半分に切る。
１枚カードを取り，イラストの片方を持っている友達を探す。
２枚合わせて１つのイラストができたら，パートナーとなる。
前回以上に興味を示し，楽しみながら相手を探していた。その姿から，現在のそら組の発達に即した教材であると捉え，以後の活動では，２代目を活用する。

みんなと過ごす楽しさを感じ始めたＹ男

Ｙ男：わくわくカードでパートナーになった子と，「じゃんけんミキサー」に笑顔で参加する。「おたすけいすとりゲーム」にも，意欲的に参加する。座る場所がなくなり，仲間のひざの上に座る場面になったが，なかなか座る場所を見つけることができない。
他児：「Ｙ男すわっていいよ」と数名の子が声をかける。
Ｙ男：座ってもいいのかな？という表情で，迷っている。
教師：そばに行き，Ｙ男の手をとって，声をかけてくれた友達のところに一緒に行く。「○○さんが呼んでいるよ」「座っても大丈夫だよ」と声をかけると，はにかみながら，友達のひざの上に遠慮がちに座る。
Ｙ男：同じような場面が何度かある。その都度，座る場所に迷い自分で座ることができない。
教師：一緒に座る場所を見つける。
Ｙ男：友達をひざの上に座らせてあげるときは,とても嬉しそうである。再び座る場所を見つけられない。女の子のひざの上しか空いていないため，座るのをためらっている。
女子：「すわっていいよ」と声をかける。
Ｙ男：迷っているが，「もういい」といって応援席に行こうとする。
教師：Ｙ男の表情が明るく，満足した表情だったため，今までの頑張りを認め「よく頑張ったね。今度はみんなを応援してね。」と伝え，仲間の活動を応援してもらうことにした。
Ｙ男：笑顔で仲間を応援する。

活動を振り返って

◇わくわくカードで，パートナーを自然な形で組むことができ，安心している様子が伺えた。また，「じゃんけんミキサー」を取り入れて始めて笑顔で参加したことからも，Ｙ男は活動に興味をもつ前に，人との触れ合いに苦手意識をもっていたり，自分から誘ったりすることができず，自分に自信がないのではないかと感じた。
　このことから，わくわくカードで，仲間を見つけることは，Ｙ男にとって，楽しんで活動に参加するための，きっかけになると考える。
◇「いすとりゲーム」に参加し，仲間のひざの上に座ることに遠慮しながらも，途中まで参加する姿から，みんなで活動することに興味をもち，楽しいと感じ始めていると思われる。
◇当日は，無理に最後まで参加させず，Ｙ男が満足した所まで参加したことで，Ｙ男にとって楽しい気持ちのまま終えることができた。そのことが，仲間を応援することにつながったのではないかと思う。

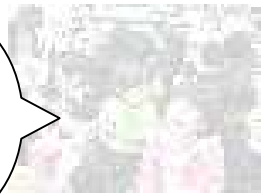
ルールを守り，楽しく活動に参加したＲ男

Ｒ男：新しくなったわくわくカードに興味を示し，はりきってカードを取りパートナーを探す。女の子とパートナーになるが，スムーズに組み相談しながら，楽しそうにおこなっていた。
Ｒ男：大好きな「いすとりゲーム」に喜び，早くやりたいとうずうずし，仲間に「ちゃんと話を聞いて。」と注意をしている。
友達のひざの上に座ったり，また座る場所を探している子に「○○空いているよ」と教えてあげたりする。
自分が座る場所がなくなり負けてしまっても，怒ったり仲間を責めたりせず，自分で応援席に行き残っている仲間を応援している。Ｒ男の表情も明るく，活動に満足している様子であった。

活動を振り返って

◇わくわくカードを用いても，スムーズにパートナーを組み，活動に参加できるようになってきていることから，楽しく活動に参加するためには，ルールを守ることの大切さを感じつつあると思われる。

Ｋ子ちゃん、ここにおいで。座っていいよ。



座れてよかった。助けてくれてありがとう。

学級の変容

・本活動では，Ｙ男とＲ男がスムーズに参加でき，他児も自分らしく行動することができた。仲間を助けた子は自信を持ち，助けてもらった子は思いやりを感じ，仲間を応援したり応援してもらったりと楽しい雰囲気を学級全体で共有することができた。
・楽しい気持ちが共有できたことで，自分が負けても友達を応援する一体感が生まれたと思われる。
・本活動で「うれしい，楽しい，悔しい，恥ずかしい，励ます，応援する，嫌な気持ち等」の様々な感情を体験したことで，学級の子ども達の中でも，自分の気持ちに折り合いをつけることができるようになってきていると思う。

第６回目　１月 19 日（木）学級全体での活動【グループかるた遊び】

・いつも遊びを共にしている仲間だけではなく，様々な友達とかかわりを持てるように，当番活動や弁当を共にしているグループでかるた遊びを行い，グループ内のつながりを深められるようにする。
・ルールや役割分担を相談し合いながら，仲間を意識して遊びを進め，様々な感情を体験することで，友達のよさやつながりが感じられるような言葉かけや援助をする。

環境の構成・援助

自信がついてきたＹ男

Ｙ男：自分から進んで，かるたを読みあげる役になり，はりきって参加する。
教師：「Ｙ男の話し方は，聞きやすいね。上手だね。」とみんなの前で褒める。
Ｙ男：笑顔で読み始める。
教師：Ｙ男の表情も明るく，自己発揮しながら意欲的に活動に参加している姿を見守る。

活動を振り返って

◇当日の活動に，スムーズに入ることができたのは，かるた遊びで，ひらがなが読めるというＹ男の得意なことを生かせる場面が生まれたからだと考える。また,読み手という活動の中心になり，みんなの役に立っているという，うれしい気持ちからだと考える。

自己発揮するＲ男

Ｒ男：たくさんかるたを取れたことを喜んで教師に見せる。
教師:「こんなに取れたんだね, すごいね, Ｒ男はよく話を聞いているんだね。」
Ｒ男：「かんたん」と得意そうな様子である。
教師：「○○さんも，読むのが上手だね。」と読み手を褒め仲間を意識させるようにする。
Ｒ男：うれしそうに取ったカードを一枚一枚数える。
「やったー，おれ○枚！！一番多い！！」
教師：「すごいね。頑張ったね。」とＲ男のうれしい気持ちに共感し,達成感を味わえるようにする。
Ｒ男：2 回戦は読み手をやりたいと，はりきって次に進んだ。

活動を振り返って

◇少人数の落ち着いた雰囲気の中で，グループの中で，一番になった満足感から, 自信を持つことができたと思う。
◇自信がついたことで, 読み手にも挑戦してみようという気持ちになったと考えられる。

学級の変容

・学級全体で，６つのグループに分かれ，かるた遊びをおこなった。必要最低限のルールは全体で確認し，役割分担や細かいルール，トラブルが発生した場合は，グループ内で相談して決めることを全体で約束した。
・読み手と取る人の役割分担もじゃんけんで決めたり，話し合いで決めたりしていた。また取る人は，手を頭の上に乗せる等ルールを相談し合いながら，トラブルもなく進めることができた。
・日頃おとなしい子が，読み手をやりたいと手を挙げたり，たくさんかるたを取ることができ喜んだりと，個々が自己発揮しながらグループの仲間と楽しさを味わうことができた。
・当日の活動は，1 時間半と長時間になったが，ほとんどの子が教師が合図をするまで，活動に集中していた。充実した遊びが展開されたとき，子ども達は時間を気にせず，長時間でも集中することを改めて実感した。

第７回目　１月 20 日(金)　学級全体での活動【トーナメントかるた大会】

・Ａ４サイズのイラストでわくわくカードをつくり，誰とグループになるのか楽しみにできるようにする。様々な友達とかかわり誰とでもグループをつくり，友達とつながりを深め友達のよさに気づけるようにする。
・かるた大会をトーナメント形式にしたりグループ名を決めることで，グループ内が団結したり協力しようとする気持ちになるようにする。

環境の構成・援助

わくわくカード
（グループづくりバージョン）
１枚のイラスト(６グループ分準備)をグループ人数分に切り，裏返しにして，１人１枚取る。同じイラストの仲間を探し，テープで張り合わせて同じグループになる。

みんなで，力を合わせ貼り合わせている様子

完成

グループ名と，取る順番を相談中

黒板にトーナメント表とグループ名を記入

学級の変容

・わくわくカードにも慣れ，グループづくりの際も，「○○の人は，いませんか？」と声をかけ合い，仲間を探すようになってきている。また誰とチームになっても，嫌がることや照れることもなく，スムーズに仲間がつくれるようになってきた。
・グループでカードをつなぎ合わせる際も，テープを取る役割，組み合わせる役割，イラストがきれいにくっついているか確認しようと提案する子，と自然に役割分担をし，日頃控えめな子も意見を言ったり活発な子がリーダーになったりと，協力し合って，どの子も活動にかかわっている姿が見られた。
・グループの名前を決める際も，意見が一致し早く決まるグループ，１つに絞れず意見を出し合った結果，名前が決まるグループがあり，自分の考えが通らなくても気持ちに折り合いをつけることができる子が多くなってきている。

◆開始する前，グループ名を決める際に，我慢して名前を譲ってあげた子の話をする。その子の折り合いをつけた気持ちをみんなの前で認め，やりとりを伝えることで，相手の思いに気づけるようにした。
◆完成したそれぞれのわくわくカードをみんなに１つ１つ見せながら，カードの特徴や，つくり上げる際，力を合わせて頑張ったグループのエピソードなどを伝えることで，グループに団結力が生まれ，他の考えや思いに気づける場面にした。

仲間と一緒に活動に取り組むＹ男

Ｙ男：わくわくカードをつくる際に，きれいにできたがどうか確認しようと提案するが，仲間に取り上げてもらえなかった。しかし，落ち込むことなく，活動に参加し，かるた大会も笑顔で参加できた。

活動を振り返って

◇自分の意見が受けいれられなくても，活動に参加したことから，気持ちの切り替えができるようになってきていると思う。
◇自分の意見もはっきり言えたことから，集団の中で活動することに抵抗がなくなってきているのではないかと考える。活動を通して，自信を持ち始めているのではないかと考えられる。

気持ちの調整を体験するＲ男

Ｒ男：かるた大会に意欲的である。気の合う友達とは同じグループになれなかったが，気にはしていない。

１回戦開始。

Ｒ男：「○○見つけるのが遅い。」「いつも取れない」と仲間に怒る。
教師：「応援してあげたら，頑張れると思うよ」
Ｒ男：教師の話を聞くが，勝ちたい思いが強く，再び仲間を怒る。
自分がたくさんかるたを取ることができたと喜ぶ。
仲間が取りに行く際，「早く，あっちにある」と応援する。
仲間がかるたを取ったときは，「やった」と一緒に喜ぶ。
しかし，仲間がとれなかったときは怒る。
Ｒ男のグループが勝つ。喜んで２回戦に参加する。

２回戦開始。

対戦相手にＲ男の仲の良い友達が多い。
Ｒ男はかるたを取ることができるが，相手が強く仲間はかるたを取ることができない。負けていると感じるＲ男がますます仲間に怒る。
Ｒ男：「は～。○○はいつもとれない。」「遅い」
結局，相手のグループが圧勝し，Ｒ男のグループは負けた。
Ｒ男：「おまえのせいで負けたんだからな。」仲間を責める。
仲間：「そんなこと言ったら，かわいそうだよ。」
Ｒ男：「うるさい。」怒って，教室から出て行く。
振り返りの前に教室に戻ってきた。
教師の後方に座り話を聞いている。
教師：Ｒ男のそばに行き話しを聞く。「勝ちたかったんだよね。」
Ｒ男：涙目でうなずく。
教師「Ｒ男の悔しい気持ち，先生はよくわかるよ。Ｒ男はとてもよく頑張っていたね。友達がとれたとき，とても喜んで褒めていたね。先生見ていたよ。うれしかったよ。」「怒って，出て行ったけど，教室に戻って来たね。うれしいな。」
Ｒ男：怒られると思っていのだろう。ほっとした表情を見せる。
教師：「Ｒ男は今日，負けて悔しい思いをしたけど，Ｒ男は負けた子の気持ちがよくわかったでしょう。だから，Ｒ男は友達に優しくなれると思う。心の強い子になると思う。心の強い子は，絶対いいことがあると思うよ。」
Ｒ男：涙目で聞く。
教師：「次のかるた大会も挑戦してみる？」
Ｒ男：「うん」とうなずく。

◆今日の活動で負けたことで，泣く子や落ち込んでいる子が数名いた。振り返りの際に，勝った子の気持ちや負けた子の気持ちを代弁しながら，様々な感情体験を認めていった。また，勝負なので，勝敗はついたが，試合をしている時，みんな仲間を応援したり一緒に喜び合っていた姿を伝え，仲間と協力できたことを認め褒めた。
◆Ｒ男が自分で気持ちをコントロールし，教室に戻って来たことや涙目で話を聞く姿から，Ｒ男が仲間に言った言葉や，部屋から出て行ったことは，良くないことだとＲ男が一番分かっていると判断し，Ｒ男の姿を受け入れた。

活動を振り返って

◇2 回戦で負けた対戦相手に友達が多くいたこともあり，勝ちたい気持ちや悔しい気持ちが増したのだろう。
◇Ｒ男の勝ちたい気持ちに共感し，教室に戻って来たＲ男を認め受け入れたことで，Ｒ男は教師の話しを受け入れ，次もやってみようという気持ちを持つことができたと思われる。
◇怒りを抑え自分の意志で戻ってくることができたＲ男。嫌な思いをしても学級に戻ってきたいと思える姿から，Ｒ男にとって学級が居心地のよい場所になってきたものと思われる。

第８回目　1月23日（月）学級全体での活動【大型かるたゲーム】

検証保育指導案

平成２４年１月２３日（月）
大山幼稚園　○○組
男児１５名　女児１３名　計２８名
保育者　大広　貴子
講　師　大湾　由美子

1　主な活動名　「大型かるたゲーム」をしよう。

2　ねらい
○チームでの勝敗を楽しみ，友達とのつながりを深める。
○学級全体でおこなう活動に意欲的に取り組み，仲間意識を育む。

3　内　容
・ルールを守り，遊びを進めて楽しむ。
・助け合い，励まし合い，教え合う。
・やり遂げる楽しさを共有する。
・失敗した友達を責めずに受容する

4　活動設定の理由

幼稚園教育要領解説「人間関係」内容(７)に『友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう』とある。そのためには，友達と様々な心を動かすできごとを共有し，互いの感じ方や考え方，行動のしかたなどに関心を寄せ，それらが行き交うことを通して，それぞれの違いや多様性に気付いていくことが大切である。

そこで，教師が学級活動を通して，意図的に互いのよさを認め合えるような環境づくりに努め，適切な幼児理解のもと，援助や環境の工夫をすることによって，学級が楽しく居心地のよい場所となり，仲間とのよりよい関係性が築かれるだろうと考え本活動を設定した。

①　学級の実態

一人一人明るく活発で人なつこくとても素直である。少人数での気の合う友達同士集って，好きな遊びを選択して相談したり，工夫し合いながら意欲的に遊びに取り組むことができる。また，12月におこなった生活発表会では，友達と力を合わせて活動する経験をし，友達の輪も広がりつつある。学級全体の活動においても，学級を意識した行動ができる子が増えつつあり，友達にアドバイスをする姿も見られるようになってきた。

一方，気の合う仲間で活動しているところに他児が加わることを拒否したり，仲間に入れることはあっても思いや考えの違いから，たびたびトラブルが発生することがある。また，クラスの全体活動において皆で集って話を聞くことや歌，集団遊び，話し合いで何かを決める際も，集団の輪に入らない子や途中からぬけだす子の姿が見られる。学級全体でおこなう活動に否定的な子も見られ，集団で行動することの楽しさが実感できず，仲間意識の育ちに課題がある。

②　教材観

かるた遊びは，複数の友達とのかかわりが必要であり，役割分担やみんなで楽しむためのルール等もある。さらに全体的に就学への意識が芽生え，文字や数字に関心が高まっていること等から，この時期に適した教材である。子供たちは遊びを通して，かるたを取ったときの満足感，取れなかったときの悔しさ等，自分の思い通りいかない葛藤体験をする。グループの友達を応援したり，応援されたときの気持ちの変化等を通して，友達のよさに気づき，互いに認め合い，仲間としてつながっていけるものであると思う。

本時の保育では，今まで経験してきたかるた遊びを土台にして，より発展して，教師も子供と一緒に学級全体で一斉におこない，また勝敗を争う楽しさを共有し互いのよさを認め合い，みんなで取り組むことを楽しむ気持ちを育むには有効な教材である。

③　指導観

かるた遊びを学級全体で取り組むことで，子どもたちが自己発揮をしながら，みんなで取り組むことの楽しさを感じ，教師や友達と共に過ごす喜びを味わい，友達のよさや学級のよさに気づいていけるような保育展開と楽しい雰囲気づくりを心掛けたい。

いつも遊んでいる気の合う仲間だけではなく，様々な子と触れ合うことができるようにするために，子ども達が楽しみながらグループづくりやパートナーづくりができるようにカードなどの教材を準備する。

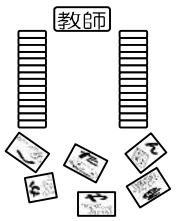
また，遊びを進める中で，「ゆずり合ったり，気づいたことを教え合ったり，自信をもって行動する」ことが見られるように，ゆったりとかかわる場面を設定しいく等の環境の構成をおこなう。

思い通りにいかないことや，友達との思いの違いから起こるトラブル等の葛藤体験の場面も予想される。みんなで楽しく遊ぶためには，自分の思いを通してばかりではなく，相手にも思いがあることに気づくこと，ルールを守らないといけないこと等，体験を通して気づき，気持ちの折り合いをつけることも必要である。その際，友達同士で解決し，自分の力で次に進めるように見守りながら，必要に応じて教師が仲立ちとなり援助をし，自信をもたせるよう心がけたい。

指導案　平成 24 年 1 月 23 日（月）	○○組　男児 15 名　女児 13 名　計 28 名　保育者：大広　貴子

＜主な活動名＞　「大型かるたゲーム」をしよう。

研究仮説	・幼稚園生活において，幼児が様々な体験をし，友達との触れ合いを楽しめるような環境の構成や援助の工夫をすることによって，互いのよさを認め居心地のよい学級づくりができるであろう。		
ねらい	・チームでの勝敗を楽しみ，友達とのつながりを深める。 ・学級全体でおこなう活動に意欲的に取り組み，仲間意識を育む。	内容	・ルールを守り，遊びを進めて楽しむ。 ・みんなでやり遂げる楽しさを共有する。 ・助け合い，励まし合い，教え合う。 ・失敗した友達を責めずに受容する。

時　間	○予想される幼児の姿　☆教師の援助　✽育つこと	＊評価項目(幼児の姿)	◇環境構成
10：15 10：25	○わくわくカードで 2 人組をつくり「じゃんけんミキサー」をする。 ☆一緒に活動する楽しさや一緒にいると気持ちがいいと感じられるように，教師自身も楽しむ等の雰囲気づくりを大事にする。 ○ルールを話し合う。 ○チームに分かれる。 ☆誰とでもかかわりがもてることを念頭に置き，子ども達が楽しみながら，チームをつくれるよう配慮する。 ○試合への気合を入れる。 ☆チーム内が団結し協力して臨めるようにする。 ○試合開始 ・前に進み済んだら列の後に行く。・仲間に座る場所を教える。 ・取ったカードを友達に預ける。　・カードを預かってあげる。 ・失敗した子を慰める　・失敗した子を追及する。 ・激励と歓喜の声がとびかう。 ✽順番が分かる・守る。✽勝負への意欲が高まる。✽互いを認める。 ☆スムーズな展開や勝負を楽しませるために，読み手は教師がおこなう。 ☆仲間を思いやる場面が見られた時は，声をかけたり動作で認める。 ☆みんなで動くことによる楽しさや触れ合いを感じ，友達とつながりを深め，友達のよさに気づけるような言葉かけや援助をする。 ☆黒板にグループ名や合計枚数を書いて，数，順位などに気づかせるようにすることで，勝負の気持ちを高められるようにする。 ✽次第に仲間を応援する気持ちが芽生え，気の合う友達だけではなく，チームの仲間を応援するようになる。 ✽かるたを取れなかった子は悔しい思いを経験するが，グループの仲間が挽回することで，気持ちの切り替えをし仲間を応援していく。 ✽勝ったチーム，負けたチームもあるが，みんなで１つの目的に向かい力を合わせた経験や教師や友達と共に過ごす喜びを味わうことができたよさを実感する。 ○トラブル発生 ・お客さんを意識し，普段以上に元気で気持ちが落ち着かない子。 ・集団行動に馴染んできたが，自分の意に沿わないと抜けてしまう子。 ☆今日は様子をそっと見守る。「今日は参加できなかったけど，明日は頑張ろうね」と活動への意欲が持てるようにする。 ☆トラブルや葛藤体験は，子ども達同士で解決していく様子をそっと見守ったり，必要に応じて仲立ちをしていく。 ✽思い通りにいかない葛藤から，遊びを楽しく進めていくためには，ルールを守ることの大切さに気づいていく。 10：45　○楽しかったこと，気づいたことを発表する。 ☆よかった場面や楽しかったこと，悔しかったけど乗り越えたこと等を取り上げ激励することで，一緒に活動する心地よさを感じられるようにする。	＊みんなで集まる場を楽しんでいるか。 ＊みんなで活動することに期待を持っているか。 ＊グループで協力している姿が見られるか。 ＊気持ちの折り合いをつけることができているか。 ＊友達とともに過ごす喜びを感じているか。 ＊またやりたいと思っているか。	〔ホール〕 【チーム分け】 ・座席の裏に赤色，青色のテープを貼っておく。（園児には内緒） ・ホールにいすをランダムに置く。 ・教師のピアノの曲に合わせ，いすの周りを歩き，曲が止まったら，空いている席に座る。 ・自分の座っているいすのテープの色でチーム分けをする。 【試合開始】  【準備】 ・テープ「じゃんけんミキサー」 ・わくわくカード ・大型かるた

評価の観点	＊子どもたちが興味をもち，「やってみたい」と思えるような話の進め方をしていたか。 ＊一人一人の動きや表現を認め，その場面や状況に合った援助ができていたか。 ＊友達とイメージを通わせ，楽しさを共有できる雰囲気を味わわせることができていたか。 ＊教師自身が楽しんで取り組んでいたか。　＊教材や環境の構成は適切であったか。

チーム分け

誰とでもかかわりが持てるように，楽しみながら，チームがつくれるようにする。
いす取りゲームのように座ったいすの裏には，赤色と青色のテープが貼ってある。

ハプニング発生！！

赤，青チームのいすの数が合わず，赤チームの数が圧倒的に少ない。子ども達と解決策を相談。「赤に，移動すればいいんだよ」との意見に，学級が納得。青チームから数人の子が移動してくれた。
その中でも，率先して移動したのが，R男であった。

一致団結

チームが団結し，ゲームに臨めるように，黒板にチーム名と，合計枚数を書けるようにする。そして，各チーム「エイエイオー！！」と気合を入れて，ゲームを開始した。

自信がついたK子。一緒にやってあげたM子

◎前回のかるた大会には参加しなかったK子。今日は参加している。
K子：「1人で行きたくない。」自分の番になり，教師のそばでつぶやく。
教師：「友達と一緒だったら行ける？」
K子：「うん」とうなずく。
教師：「M子，一緒に行ってもらえる？」と隣に座っていたM子に聞く。
M子：「いいよ」快く受け入れ，K子の手をつなぎスタート。
K子：かるたを取ることができうれしそう。
◎K子はかるたを取れたことで自信をつけ，次回からは 1 人で取りに行った。
◎一緒に行ったM子。K子の次はM子の番であったが，K子と一緒に行ったことを自分も参加したものと考え，K子と一緒に取り終わった席に座る。人の為になったことに満足している様子であった。

はりきって参加したY男

・全体での活動に意欲的に参加できるようになってきた。当日の活動にも，スムーズに参加することができた。
・大会では，友達を元気よく応援する姿があった。
・Y男のチームが勝ったことで，チームで協力した達成感やうれしい気持ちが増し，Y男にとってみんなでおこなう活動が楽しいと感じる場面になったと思う。

頑張ったR男

R男：「は～また取れない。」「遅い」と取ることができなかった仲間を怒る。
R男自身も意欲的に挑むが一枚もとることができない。悔しがるが，気持ちを立て直す。
「○○やった。取れた。」と仲間を激励する。
「次は○○の番，○○早く。」「席が空いた，よって。」と仲間に教えてあげる。
「J男，遅い，何で取らなかった」
J男：R男の発言に落ち込む。涙目になる。
次の回，かるたを取ることができた。
R男：「ナイス！！」とJ男を褒めるR男。
J男：うれしそうに笑う。
R男：その後，仲間を応援し，かるたを取った仲間を素直に褒める。
しかし，悔しい気持ちを言葉で表現する。
R男はこの日，かるたを一枚も取ることができなかった。
R男：自分のチームが負けたと感じ，悔しそう。
教師：R男が気持ちの切り替えができることを願い，かるたを数えてもらうことをお願いする。
R男：意欲的に行う。しかし，負けが確定すると「こんなのおもしろくない」と悔しい気持ちがあふれ出し，オルガンの後ろに隠れる。

活動を振り返って

前回も負けて，今回も負けてしまい悔しい気持ちが増したR男。相手チームには活発な子が多く，かるたをたくさん取ることができたと思われる。また，R男の対戦相手も強い子であった。R男が青から赤に移らなければ，R男は勝つことができたかもしれない。いろいろなタイミングが重なり，R男にとって，満足のいく活動にはならなかった。

しかし，R男にとって本活動では，仲間と 1 つの目的に向かって取り組む経験ができた。また，自分の思い通りにいかないこともあることを体験した。悔しい気持ちを言動で表現するが，気持ちに折り合いをつけることのきっかけになりつつある。

このような様々な体験から，集団を意識して行動することができるようになりつつあると思われる。

そしてR男が仲間を心から応援したり，褒めてあげる姿に学級の仲間もR男のよさに気づくきっかけになったと思う。

ゲームを終えて

・勝ったチーム，負けたチームの気持ちに共感し，それぞれの気持ちを代弁しながら，チームの良かったところを認め仲間と力を合わせ頑張ったことや，悔しい気持ちから友達に優しくなり，気持ちのわかる子になれることを伝えた。
・負けてくやしがっているR男の名前を主に出し，青から赤に代わってくれた友達のおかげで，今日はゲームを始めることができたと感謝の気持ちを伝えた。
・ゲームの間，みんなで仲間を応援し，協力し合っている姿がとてもよかったことを伝え，今日のみんなの頑張りを認めた。

育ち合う仲間

・勝負を通してチームが団結することで，教え合ったり，応援し合ったり，協力したり，声をかけ合ったりと，心が一つになる場面，様々な体験をする場面をつくることができた。

・心が一つになる場面

○順番を守る。
○席の移動を教えてあげる。
○日頃，遊びを共にしない子の名前を呼び，応援している。
○仲間が取れないときは一緒に悔しがり，取れたときは共に喜ぶ。
○遊びの中から自然に自分達でルールを考え，役割分担をする。
○取ったかるたを集めて，まとめて持つ係。
○取ったかるたを仲間に預ける。
○ばらばらになったいすを並べる。
○かるたを並べ直す。

・様々な体験

○ルールを守る。
○自分や仲間が取ったとき→うれしい，気持ちいい，自信になる。
○自分や仲間が取れないとき→悔しい，悲しい，怒り，次こそは！！
○仲間を応援するとき・されたとき→わくわく，うれしい，頑張るぞ。
○仲間に怒られたとき→悲しい，嫌だな，怖い，頑張るぞ。
○自分の番のとき→どきどき，とれるか心配，必ず取るぞ。
○役割分担をしたとき→みんなの役にたっている(自信になる)。
○かるたを預かってもらったとき→優しいな，うれしい。
○勝負に負けたとき→悔しい，怒り，悲しい，やりたくない，次こそは！！
○勝負に勝ったとき→うれしい，楽しい，もっとやりたい，自信になる。

活動を振り返って

◇個々が様々な体験を通して成長していくことで，今まで見られなかった一致団結したり学級の変容が見られるようになった。
◇個の成長があったからこそ，子ども達が集団を意識し，集団としてのまとまりが出てきたものと考える。
◇今回，かるた遊びを通して，考えたり相談したり力を合わせたりしながら，様々な感情体験をすることができたと思われる。その中で子ども達が自己発揮しながら，仲間を意識し，よさを認め仲間づくりができたものと思われる。
◇嫌な思いを経験する子もいたが，それでも，そこから逃げ出さず，我慢をしても「仲間の中にいたい」と思えることは，学級が居心地がよいと感じることができつつあるからであると思われる。

負けて落ち込む赤チーム

勝って喜ぶ青チーム

3　公開検証保育反省会

(1) 保育者の反省

・子ども達は，いつもより大きな声で応援したり，友達に怒られたり，褒められたり，励ましたりしながらも，ゲームを楽しみつながりを深めたと思う。
・ゲームに意欲的に取り組んだ。学級全体での活動を好まない子も，自ら席を変わってあげたりと，学級を意識した行動ができるようになった。
・振り返りの際に，良かった場面や楽しかったこと，我慢して頑張ったこと等を捉え，学級全体で互いのよさを感じ認め合うための時間と雰囲気を十分に持つことができなかった。

(2) 意見及び感想

・チーム分けでは手立てが工夫され，仲間意識が育つ環境の工夫がされていた。
・教師が気づいたことをもう少し子ども達と共有して，子ども達のよい姿を表に出していって，そのよさが広がっていけば，お互いのよさを認めることになり，子ども達はいい方向に行くのではないか。

(3) 指導助言(沖縄キリスト教短期大学非常勤講師　大湾由美子先生)

・仮説は十分に検証されたと思う。
・かるた遊びでは，様々な体験ができる。今日の活動では，葛藤，勝敗，嫌い，悔しい，よかった，励まし合う，助け合う，頑張れよと励ます気持ち，やったという気持ち等を体験し，自分で気持ちを調整することができた。
・この時期（一年生に向けて切り替えていく）に，嫌でも我慢することを経験することは大事なことである。
・順番を守る，数を数える。何となく五十音が読めるなど，いろいろな体験をし，次のステップに進むためには，いい教材である。
・子どもの心をかきたてるようなワクワクさせるような言葉かけがあれば，もっとよかった。

・最後の振り返りで，教師が子ども達のよさを認めたり頑張ったことを褒め，共感し合える時間がもっとあればよかった。教師が子ども達の心を調整する必要があった。
・園全体の先生方の温かく子どもを育みかもし出す雰囲気が，子ども達の活動を生み出している。

以上のことから，学級の仲間を意識し，誰とでも触れ合うことができ，つながりを深められるように環境の構成をし，実践または反省をしていく中で，幼児一人一人を多方面から理解することで，個に応じた援助をすることができた。しだいに個が意欲的に活動に参加し，様々な体験をすることで，トラブルが起きても気持ちに折り合いをつけ，仲間を意識した行動ができるようになってきた。個の成長と共に学級全体でも，自己発揮しながら思いや考えを出し合い，互いのよさを認め遊びや活動に取り組めるようになり，共に育ち合う姿が見られた。

よって，幼児が様々な体験をし，友達との触れ合いを楽しめるような環境の構成や援助の工夫をすることにより，互いのよさを認め居心地のよい学級づくりができるようになったと言える。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

(1) 集団活動を好まなかったり，苦手意識を持っていた幼児が，仲間と触れ合う活動を数多く取り入れることで，まずは挑戦してみようとする意欲が芽生え，学級活動に参加するようになった。
(2) 思い通りにいかないことがあっても，自分の気持ちに折り合いをつけながら学級活動を続け，みんなと過ごす楽しさを感じられるようになってきた。
(3) 幼児が互いのよさを認め，学級が居心地のよい場所と感じるために，かかわりながら様々な体験ができるような環境の構成（場面をつくり出す）をおこなうことが，重要であることがわかった。
(4) 学級全体で様々な体験を共有し，伝え合うことが互いのよさを認め，認め合う関係をつくるのには重要であることがわかった。

2　今後の課題

(1) 本研究では学級集団としてのまとまりを目標にしたため，一斉指導，課題活動を中心に実践をおこなったが，今後は一日の生活の中でも，学級の友達を意識し互いのよさを認め合える環境の構成について教材研究を深め，実践していきたい。
(2) 幼児が興味を持ち，意欲が出てくるような教師の魅力のある話し方の工夫をし，幼児が一緒に活動する心地よさを感じられるように，思いや考えを共有する場の手立てを図りたい。

3　おわりに

今年度，宜野湾市立教育研究所に入所させていただき，恵まれた環境の中で，これまで自分が課題としていたことにじっくりと向き合い，理論・実践の両面から学び研究をすることができました。

このような研究の機会を与えてくださった，宜野湾市教育委員会の諸先生方，瑞慶山良常宜野湾市立教育研究所所長，高森新一大山幼稚園園長に心より感謝申し上げます。また，検証保育にあたり，いつも温かく迎え入れ，研究にご理解ご協力いただき，環境を整えてくださった，翠宮城亜希子副園長はじめ，担任の仲宗根綾乃先生，玉城有美子先生，そして大山幼稚園職員の皆様に深く感謝申し上げます。

また，沖縄キリスト教短期大学非常勤講師の大湾由美子先生には，本研究を進めるに当たって，「保育に対する教師の姿勢」「幼児を多方面から見る大切さ」「よさを認め，伝え合う大切さ」「場面をつくり出す環境の構成，援助の在り方」や，「保育の楽しさ」「子ども達のよさ」など，たくさんのご指導，ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。

最後に，当研究所研修係長の西康勝先生には，研究の進め方や論文の書き方など，丁寧にご指導くださり，心から感謝申し上げます。また，共に励まし合い，学び合い，笑い合いながら過ごしてきた同期研究員の先生方，そして，いつも温かく見守り，サポートしてくださったはごろも学習センター職員の皆様に深く感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

〈主な参考文献〉

濱名浩編　2009　『保育内容　人間関係』(株)みらい
文部科学省　平成 20 年　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
河邉貴子著　2005　『遊びを中心とした保育』　萌文書林
森上史朗・吉村真理子・後藤節美編　2001　『保育内容「人間関係」』　ミネルヴァ書房